

2015年5月

第56号

# ぱれっと



(株)北日本ベストサポート  
Tel. 018-883-1888

## 観光立国をめざして

4月12日日本・中国・韓国の観光大臣の会合が4年ぶりに開催され、2020年には3国間を行き来する人を14年の1.5倍にあたる3000万人に増やすとする共同声明が採択された。

訪日外国人の数は13年に1036万人で初めて1000万人を突破した。

因みに、12年の世界の観光客の状況を見てみると1位フランス8302万人、2位米国6697万人、3位中国5773万人となっており日本は836万人で世界第33位（アジア8位）フランスの約10分の1の水準に過ぎない。

14年の訪日外国人数は1341万人（前年比24%増）となり過去最高を記録した。日本を訪れる外国人を国籍別にみると1位台湾、2位韓国、3位中国の順となっており特に中国からの来日者数が241万人（前年比83.3%増）と急増している。なお、トップ10には米国・オーストラリア・タイ・シンガポールなどが入っている。

今年の「春節」で中国から519万人が海外旅行に出かけたとされているが、行先は1位台湾、2位韓国、3位タイ、4位日本の順で来日者数は45万人となっている。

中国人の来日者の行動が面白い。来日目的はズバリ「お買い物」家電量販店・免税店・ドラッグストア等に一目散に駆け込む。そして買いまくる「爆買い」をする。一人当たり25万円、単純計算で60億元（1125億円）カード利用31億元（600億円）といった具合である。

お買い物の人気番付は1位 医療品、2位 化粧品、3位 温水洗浄便座、4位 生活雑貨、5位 炊飯器などである。これらのまとめ買い、便座を3個も買い込む人がある。また、メイドイン・チャイナの品物を買う人もいる。運賃・消費税等込で見ると日本で買うほうが安い場合がある。また、なんといっても日本では吟味された品質の良い商品が販売されており、偽物がないなど安心してお買い物ができることなどの理由で人気が高い。

来日外国人が1千万人増加するとGDPを1.8兆円押し上げる効果があるといわれている。

中国や東南アジアからの来日者増加理由は、1.ビザ要件の緩和2.円安3.所得水準の向上などが挙げられる。

しかし、日本から中国、韓国を訪れた人はそれぞれ271万人、228万人とピーク時の30%減となっている。

3国の観光大臣会合を契機として、双方の交流が活発化し経済的・政治的にもギクシャクの関係改善に役立てられるよう一石二鳥の効果を期待したい。

## 「経営者はいかに生きるか」

慶応義塾大学 名誉教授 村田 昭治

経営者になった友人あるいは先輩、後輩の話をこれまで数多くうかがってきた。誰もが「なぜ経営者になっていったのか」という疑問を持っているようだ。それは、人は何故生きるのかということに似ているかもしれない。過去に自分の才能、能力、特性を見いだしてくれた人がいた。

そして、自分の仕事を天命だと思ったり、その仕事を愛することで、使命感が生まれてくる。無我夢中になって努力し、切磋琢磨し、足りないところは自分の力で何とか縫い合わせてきているうちに、全体を観る力と細かい専門の力を併せもつようになった。そんな共通した想いをおもちのようである。

「経営者になろう、実業家になろうと一生懸命に仕事に取り組んだというより、いつのまにか皆に押し上げられて、背中を押されて引き受けることになった。引き受けてしまうと、そこに全精力を注いで仕事をした。わたしは経営者、実業家、企業人、企業リーダーとは不断の研鑽があり創造的情熱家なのだと思う。

だから、わたしは一度も満足するような意思決定をしたことはない。いつも不満を残しながら決定をしてきた」と、中山素平氏はお元気なころ語ってくださった。

中山さんはいまは亡いが、そのお言葉に魂の清浄、哲学、素っ裸で世の中に立たされた自分を見つめて、最後まで責任を取るという決意のもとに決断力を磨かれていったのではないかと、わたしは感じた。

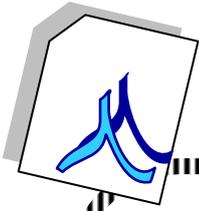
石川六郎氏（鹿島名誉会長）は博士号をもつ、真摯な学問追求の心のある方だった。

あるとき「自分の勉強が思うように進まないで憂鬱になる。学者であるあなたも同じですか」ともの静かに問われて、わたしはビクツとしたことがある。と同時に仕事にたいして発刺と精進している姿は憂鬱ではないのだ、精力がみなぎっているということを実感したのだった。

意志と情熱のある経営者がいい仕事をしているのだ。かなり高齢の経営者も、人と仕事に深い愛をもつ方は素敵に加齢されることを、わたしは教わった。

（「人を惹きつける経営」より）

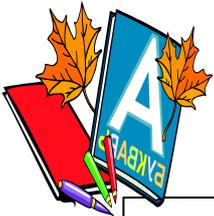




## ジョン・F・ケネディ (第35代アメリカ合衆国大統領)

- 1917年5月29日 マサチューセッツ州ブルックラインでアイルランド系移民で実業家のジョセフ・Pケネディ、ローズ・フィッツジェラルド・ケネディ夫妻の次男として生まれた。10歳までブルックラインで暮らしたが虚弱体質だった。
- 1930年 カトリックの寄宿学校カンタベリー・スクールに入学したが、体調不良によりチョート校に転校 1935年に卒業。
- 1936年 ハーバード大学に入学。父の尽力による。
- 1940年6月 優等の成績でハーバード大学卒業。
- 1941年9月 海軍士官に任官。
- 1945年3月1日 退役。
- 1946年 29歳の若さで下院補欠選挙で当選する。
- 1952年 マサチューセッツ州上院議員に出馬し当選する。
- 1960年7月13日 民主党大統領候補に指名される。
- 1960年11月8日 史上類を見ない大接戦の選挙の末、大統領に当選。
- 1961年1月20日 第35代合衆国大統領に就任。選挙で選ばれた合衆国史上最も若い大統領の誕生。  
就任演説では「我が同胞アメリカ国民よ、国が諸君のために何ができるか問うのではなく、諸君が国のために何ができるか問うて欲しい」と訴えた。
- 1963年11月22日翌年の大統領遊説パレードの際、狙撃され死亡した。43歳で大統領就任2年2か月在任だった。享年46歳。暗殺に際しては様々な憶測がなされ、スキャンダルも語られ不透明な部分も多い。

## オススメのBOOK



### 『出世する武士、しない武士』

作者 大石 学 日経プレミアシリーズ

この本は江戸時代の有名人、柳沢吉保・吉田松陰・坂本龍馬・篤姫・鬼平犯科帳の長谷川平蔵など30人の人物をその人物像と行動・考え方などを分析し、出世した武士・出世しなかった武士（失脚した）に色分けしている。

現代社会においても実業家として成功する人・失敗する人、サラリーマンとして出世する人・出世できなかった人など様々だが、ものの考え方や行動・努力+「運」によっていろいろ変化する。人様々のドラマがある。

## 自転車事故の 賠償責任保険について



近年、健康志向などによる自転車人気の高まりもあり、歩行者と自転車の事故は10年間で1.9倍に増加しています。殆どの場合自転車側が加害者です。

万一、自転車に乗っていて事故を起こすと、刑事責任が問われるのはもちろん、被害者側に訴えられれば、高額な損害賠償を請求される場合もあります。

昨年も、散歩中の高齢者に自転車でぶつかって重い後遺症を負わせた小学生の保護者に対して9千万円を超える賠償責任の支払いを命じる判決がでています。

このような自転車事故の賠償に備える保険として個人賠償責任保険がありますが、あまり知られてはいません。なぜかという、単独では販売されていないからです。この保険は、特約という形で、各種保険にプラスして加入するのが一般的だからです。

例えば、火災保険や傷害保険だったり、最近では自転車保険もでていますが、中身は傷害保険に個人賠償責任保険をプラスしたものです。このように、殆どの方は、知らない間に複数の個人賠償責任保険に加入している可能性があります。

それに殆どの賠償責任保険は、限度額が決まっており、その限度額を超えて保険金が支払われることはありません。

例えば、1千万円が限度額の個人賠償保険に3種類加入していた場合、上限は3千万円となるので、先程の9千万円を超える判決がでた場合、6千万円は自分で払わなければなりません。一般家庭ではなかなか払える金額ではないと思います。

それでは、どうしたらよいのでしょうか。自動車の任意保険の限度額のない「無制限」で補償されたらどうでしょうか。

現在、殆どの損害保険会社では、自動車の任意保険に無制限の個人賠償責任保険をプラスすることができます。しかも、家族で複数台の自動車がある場合、どれか1台に付保すれば同居の家族が無制限で補償されます。気になる保険料ですが、1カ月あたり100円前後と安い保険料でプラスすることができます。

また、自動車保険にプラスすると、示談交渉サービスがついているのも安心です。さらに、弁護士費用特約がついていれば、なお安心ということになります。

限度額の決まっている個人賠償責任保険を見直すとともに、自分の加入している個人賠償責任保険の限度額を再確認してみてはいかがでしょうか。



鳥海山を水鏡で…

### 【編集後記】

衣替えは時期を失すると野暮に見られる。

天候が定まらず暑いと思っていると各地でヒョウが落ちてきたり、めまぐるしくクルクル天候が変わっている。

桜もまだ先かなと思っていたら例年より早く咲き始め、ゆっくり見物する間もなくアツと言う間に散り終わってしまった。

桜は早々と衣替えが終わっているときに、まだボヤボヤしていてそのスピードに追いついていない野暮な自分がいる。